

# 学校不適應の問題

2000.2.26

札幌たの授サークルにて発表

2000.12.30

池田毅司さんの指摘で小改訂。

PDF形式でホームページで発表。

仮説実験授業研究会（北海道）

丸山 秀一

「学校不適應の生徒」というのが何を指すのかははっきりとはしていませんが、学校に適應しないのですから、学校とうまくいかない生徒たちなのでしょう。不登校や中途退学者、校内暴力などで問題を起こす生徒も含まれるのかも知れません。それではそういう生徒たちのことを数量的に見てゆくことにします。

## [ 質問 ]

「学校不適應の生徒」とは、どんな生徒のことだと思えますか。考えを出し合いましょ

う。

## 不登校・校内暴力・いじめ

### [ 質問 1 ]

小・中学校における「学校嫌い」による不登校（登校拒否）の数の統計を文部省は 1966 年度から取り始めました。1966 年度には小・中合わせて約 1,6000 人が不登校です。では、現在の不登校数はどれくらいあるのでしょうか。1998 年度のデータを予想してみてください。66 年度と比較して考えます。

### 予想

- |   |               |        |
|---|---------------|--------|
| ア | 66 年度の 2 倍ぐらい | 約 3 万人 |
| イ | 5 倍ぐらい        | 約 8 万人 |
| ウ | もっと増えている      |        |
| エ | ほとんど同じ        |        |
| オ | かなり減っている      |        |

不登校者数の推移

年度	小学校	中学校	合計
1966	4430	1,2286	1,6716
1998	2,0719	8,5940	10,6659

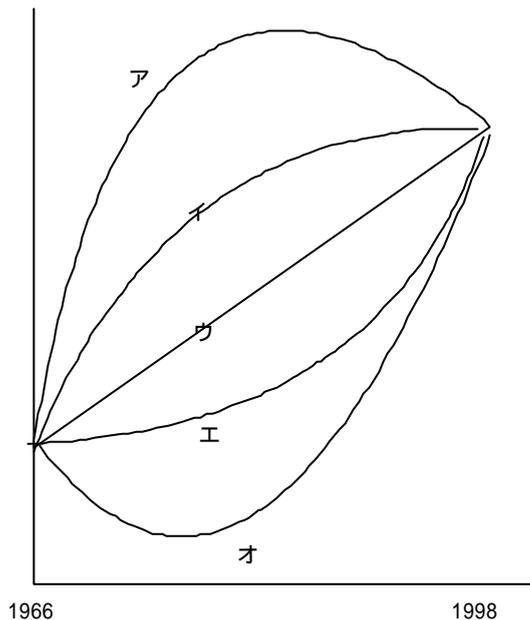
データは、「不登校で通算 50 日以上欠席」の生徒数。

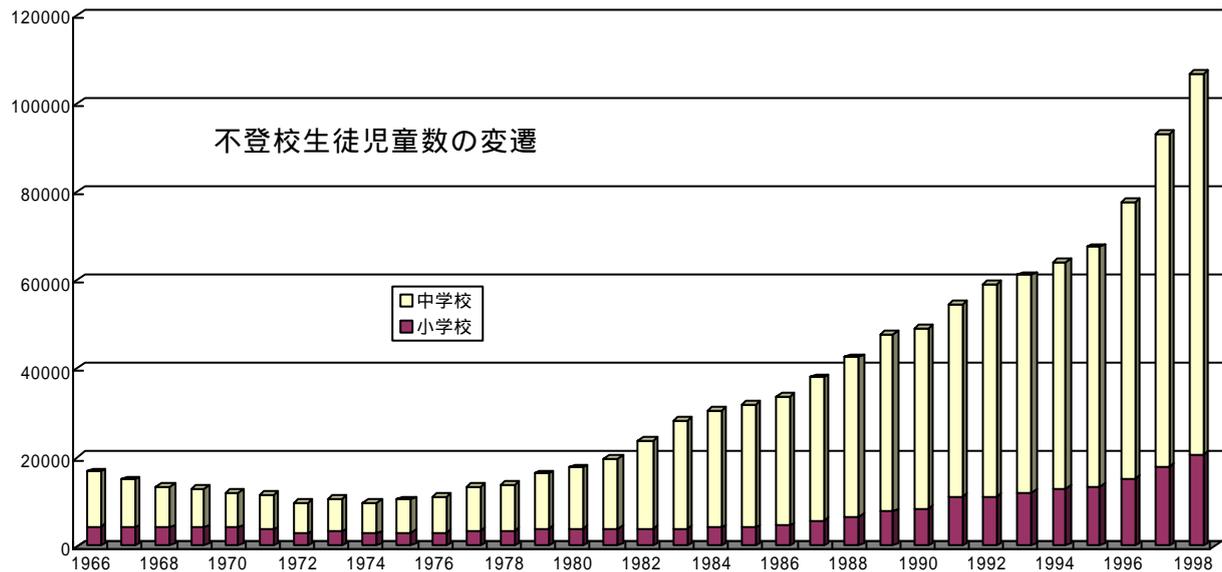
[ 質問 2 ]

不登校者数は小学校で 4.7 倍，中学校で 4.1 倍になったわけですが。1966 年度から 1998 年度にかけてどのように増えてきたと思いますか。

予想

- ア 急激に増えたあと少なくなった
- イ 急激に増えてから横這い状態
- ウ 直線的に増えてきた
- エ 横這い状態から急激に増えた
- オ 一時減少してから急激に増えてきた





『生徒指導上の諸問題の現状と文部省の施策について』のデータに文部省ホームページのデータ(1998)を加えた。

各年度とも「50日以上不登校で欠席したものの数」

[ 質問 4 ]

次は校内暴力の発生件数についてみていきます。

校内暴力が大きな社会問題になったとき、文部省はその統計資料を集めて公表するようになりました。その当時 1982 年度( 中学 4830 件，高校 930 件) と比べて最近( 1996 年度) の校内暴力の数はどうなっているでしょうか。

予想

- |   |          |        |
|---|----------|--------|
| ア | 2 倍ぐらい   | 約 1 万件 |
| イ | 5 倍ぐらい   | 約 5 万件 |
| ウ | もっと増えている |        |
| エ | ほとんど同じ   |        |
| オ | かなり減っている |        |

校内暴力の発生件数

年度	中学校	高校	合計
1982	4830	930	5760
1996	8170	2400	1,0570

『生徒指導上の諸問題の現状と文部省の施策について』(『問題行動白書』)より

[ 質問 5 ]

白書は、校内暴力の事件を「対教師，対生徒，器物損壊」の三種類に分けています。

この三つのうちもっとも件数の多いのはなんでしょうか。1982 年度も 1996 年度も同じ結果になります。

また中学校と高校では違うでしょうか。

予想

- ア 対教師
- イ 対生徒
- ウ 器物損壊
- エ どれも同じぐらい

中学校では( )

高校では( )

### 校内暴力内訳

対象	中学校			高校		
	教師	生徒	器物	教師	生徒	器物
1982	1400	2350	1080	150	710	70
1996	1250	4750	2170	300	1900	200

件数は板倉聖宣「校内暴力の発生件数」グラフ 『たのしい授業』より類推

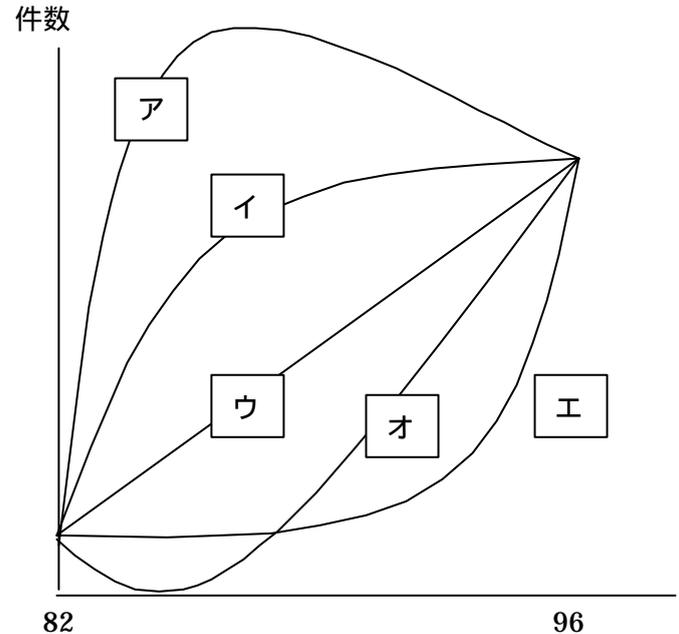
対教師暴力の件数は、中学校で下がっているのに高校では 1.5 倍となっています。また 1982 年度では、生徒が集団で生徒や教師に暴力を振っていたのに対して、1996 年度では、ほぼ被害者と加害者の割合が 1:1 になっています。(\*1)

#### [ 質問 6 ]

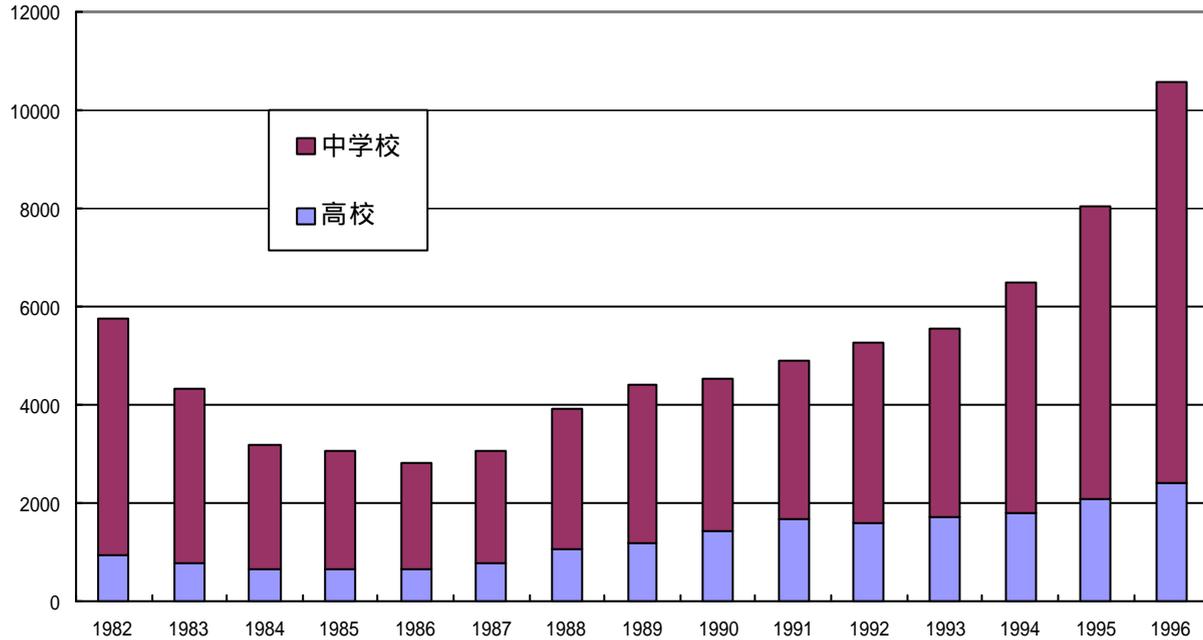
校内暴力は 1982 年度から 1996 年度にかけてどのように増えてきたと思いますか。

予想

- ア 急激に増えたあと少なくなった
- イ 急激に増えてから横這い状態
- ウ 直線的に増えてきた
- エ 横這い状態から急激に増えた
- オ 一時減少してから急激に増えてきた



校内暴力の発生件数



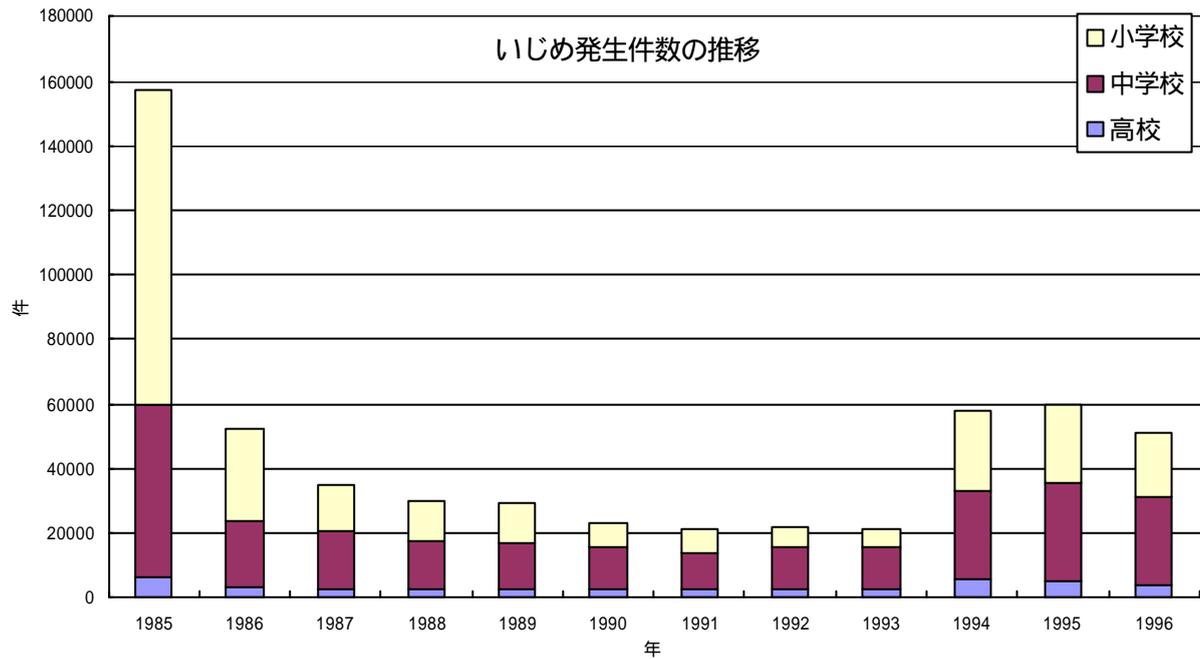
板倉聖宣「校内暴力の発生件数」グラフ  
『たのしい授業』より作成

[ 質問 6 ]

いじめの発生件数についても不登校や校内暴力のグラフと同じような推移をたどっていると思いますか。

予想

- ア だいたい同じだろう
- イ ぜんぜん違うだろう



「校内暴力・いじめ・不登校」の原因  
板倉聖宣先生はこれらの理由を二つあげて  
います。

- ・ 学校の存在価値の低下
- ・ 生徒の主体性の確立

これらのグラフを見ると，校内暴力も  
いじめも登校拒否も，同じ原因によるも  
のであることは明らかと言えるでしょう。  
一方では，学校が「学び甲斐のあること  
をたのしく教えてくれるところ」でない  
まま，「学び甲斐のないことを学び続  
ける我慢ができないほどの主体性を発揮  
する子どもたち」が増大しているのです。  
そこで，内向した子どもたちは登校拒否  
をするようになり，外交した子どもたち  
は校内暴力やいじめに走るというわけ  
です。（\*1）

板倉聖宣「校内暴力・いじめ・登校拒否  
のその後」『たのしい授業』No.193 より

またオウム真理教の問題とも関連させて，

- ・「嫌なことができる能力」は素晴らしいの  
か。
- ・自分で考えて判断できるのが素晴らしい

ということも述べています。

## 日本の教育の変遷

### [ 質問 1 ]

1954年の高校進学率(通信制除く)は50.9%で大学進学率(4年制)は7.9%でした。では、1999年の高校進学率と大学進学率はどれくらいだと思いますか。

予想 高校進学率は

- ア 99%以上
- イ 95%ぐらい
- ウ 90%ぐらい

予想 大学進学率は

- ア 60%ぐらい
- イ 50%ぐらい
- ウ 40%ぐらい
- エ 30%ぐらい
- オ 20%ぐらい

高校進学率と大学進学率（％）

	高校(通信含)	大学(短大含)
1950	42.5 (-----)	
1954	50.9 (-----)	7.9 (10.1)
1999	95.8 (96.9)	38.2 (49.1)

大学進学率は浪人も含む。

『文部統計要覧』より

予想

ア 95%ぐらい

イ 90%ぐらい

ウ 85%ぐらい

エ 80%ぐらい

オ もっと低い

[ 質問 3 ]

高校大学への進学率は 1975 年頃から横這い状態です。しかも実際には高校や大学へ行っても途中で退学してしまう人が少なくないようです。そこで中途退学者のことも考えて、高校の卒業率を考えてみることにします。

1950 年に中学を卒業した生徒の高校進学率は 42.5%に対して、高校卒業率は 37.0%になります。1996 年に中学を卒業した生徒の高校進学率は 95.9%でした。ではこの生徒たちの高校卒業率は何%ぐらいだったのでしょうか。

### 高校進学率と高校卒業率

	高校進学率	高校卒業率	中途退学者
1950	42.5%	37.0%	13,6969
1996	95.9%	85.0%	11,6105

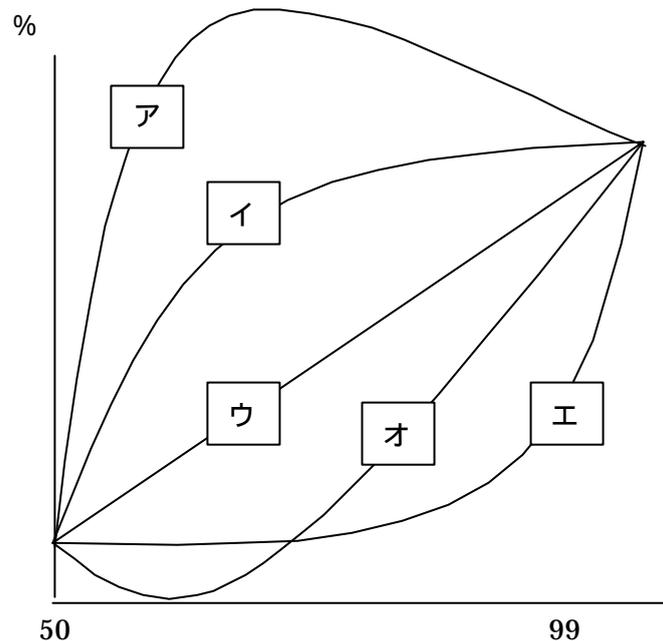
『文部統計要覧』より

#### [ 質問 2 ]

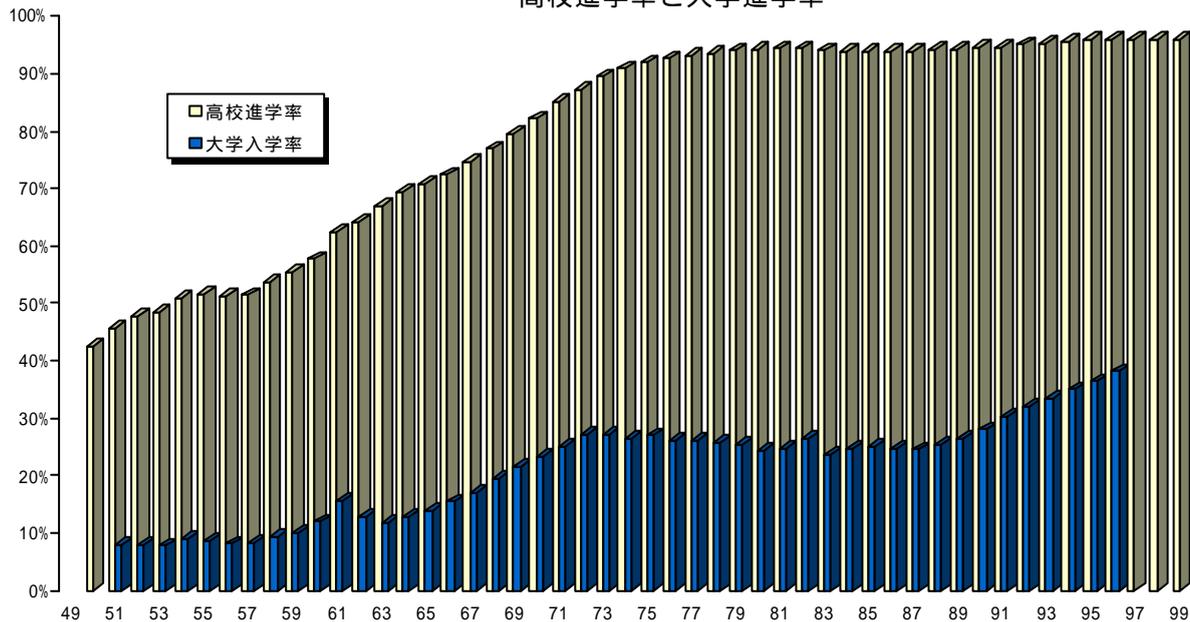
高校進学率は 1950 年度から 1999 年にかけてどのように増えてきたと思いますか。

#### 予想

- ア 急激に増えたあと少なくなった
- イ 急激に増えてから横這い状態
- ウ 直線的に増えてきた
- エ 横這い状態から急激に増えた
- オ 一時減少してから急激に増えてきた



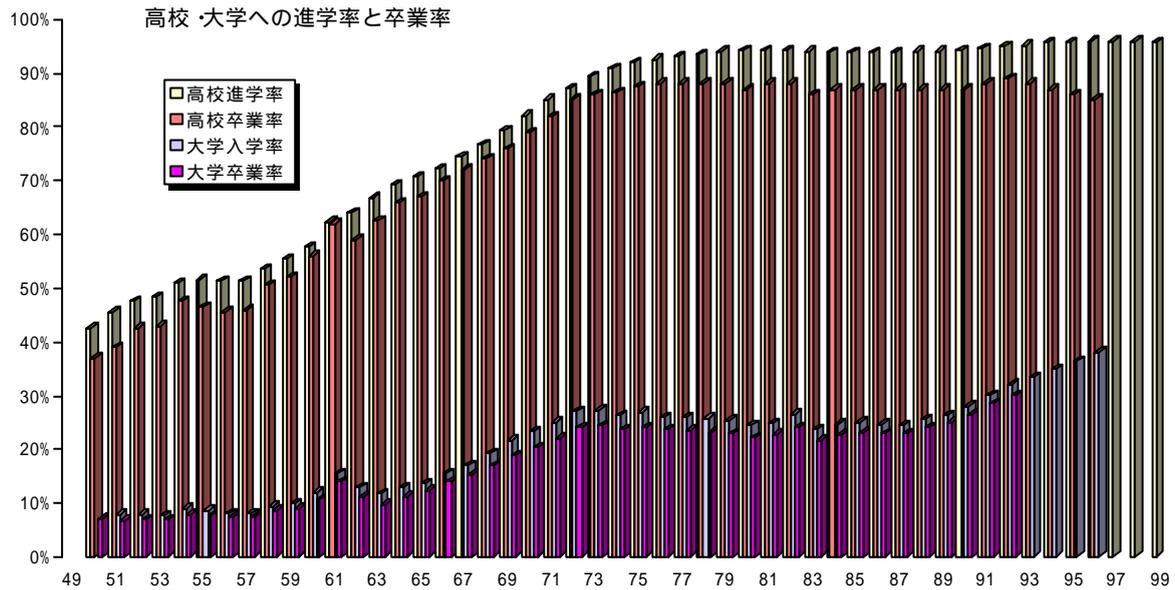
## 高校進学率と大学進学率



『文部統計要覧』より作成

1951年の軸にあるグラフは、「その年に高校へ進学したものの割合」と「その年に中学

を卒業したものが3年後に大学に進学した割合」を示す。ただし大学進学者には浪人も含まれている。



[ 質問 ]

一時期 5 万人ほどだった高校の中途退学者は、最近では 10 万人を越えるほどに増加しています。では、高校を中退した生徒たちは、中退したことを後悔しているのでしょうか。

1989 年度に全日制大阪府立高校を 1 年生で中退した生徒を対象に大阪府教育委員会がアンケートを実施しました。「やめてよかった」「少し後悔している」「やめなければよかった」の項目で「やめなければよかった」と回答した人たちはどれぐらいいたのでしょうか。

予想

- ア 80%以上
- イ 60%ぐらい
- ウ 40%ぐらい
- エ 20%ぐらい
- オ もっと少ない

項目	割合
やめてよかった	44.3%
少し後悔している	37.5%
やめなければよかった	5.7%
そのほか	8.5%
無回答	4.0%

『府立高等学校退学者実態調査報告書』より

授業を魅力的にするしかない

さて、「中退者が多い」ことを、どう考えればよいのでしょうか。

高校の先生は、「何とかして中退者を少なくしよう」と頑張っているようですが、本当にそれが正しいのかどうか、私には疑問です。私は、「頭の悪い子どもまで高校に進学させるのは間違っている」などという議論には賛成しませんが、「高校程度の教育はぜひともすべての子どもたちに受けさせるべきだ」という議論にも賛成できないからです。中学を卒業したときに「みんな

と一緒に高校に進学したい」と思うのなら、進学させてやったほうがいいでしょう。しかし、実際に高校に進学してみて、「こんなところに来て勉強させられるのは嫌だ」と思うようになるのなら、中途退学させてやってもいいと思うのです。現実の高校ではたのしい授業が実現できていないのに、すべての生徒たちを無理やり高校に引き止めておくのは間違っていると思うのです。

多くの人々が「せめて高校教育ぐらいは受けさせてやりたい」というとき、「その程度の教育内容は身につけてさせてやりたい」という意味で言われていることは、まずないようです。「人並みの教育」だけが問題になっているのです。

しかし、そんな、うわべだけの「人並み」の教育など、ほとんど意味がありません。子どもたちも高校に入ってみて、みずからそう感ずるから「中退してもいい、中退したほうがいい」と判断するのでしょうか。私

たちは、そういう現実の中で、真に学ぶに値する、教えるに値する教育内容を積み上げて、高校生たちに魅力ある授業を実現するよりほかないと思うのです。

板倉聖宣 「高校を中退してよかった」という高校中退生 『たのしい授業』No.109より

[ 質問 ]

文部省はこういった教育の現状についてどういう認識をしているのでしょうか。たとえば不登校についてはどうでしょうか。

予想

- ア 生徒の性格的問題や怠けである
- イ 親の過保護の問題である
- ウ 教師の指導の問題である
- エ 社会全体の在り方の問題である
- オ そのほか

1990年12月7日『朝日新聞』記事

「増える一方の登校拒否問題について検討を続けてきた文部省の 学校不適応対策調査研究協力者会議 が6日、中間報告をまとめた。これまで文部省や学校を中心に、本人の性格の問題 怠け 親が過保護だから などと、特定個人や家族の問題としてとらえがちだった登校拒否について、初めて 特定の子もだけの問題ではなく、学校、家庭、社会全体の在り方に関わる問題 どの子にも起こりうる との見方を打ち出した。さらに 学校復帰以上に子どもの自立が重要 と、自治体の適応指導教室など学校以外の機関での回り道も認める柔軟な対応を求めた。対策としては学校、家庭、地域の連携を求めるなど新味に乏しいものの、基本認識が大きく転換しており、登校拒否をめぐる教育行政のターニング・ポイントとなりそうだ」  
板倉聖宣「たのしい授業 の学校史的意義」  
『たのしい授業』No.101

以下は後述する板倉先生の著作から筆者がまとめて研修会でレジュメとして使ったもの。文責は筆者にある。

転換した日本の教育  
進学率・卒業率の推移 グラフ  
1975年が転換期。経済の高度成長も止まる。

- ・明治前  
国民教育のみ 寺子屋  
国民教育 = 「読み・書き・計算」  
確実に役に立つ知識を学ぶことはたのしい。
- ・明治以降  
学校で国民教育 + 教養教育（専門教育）  
教養教育の増大と有効性への疑問  
（高校教師は高校での知識を生活に使うか）  
[エジソンと数学、社長になるための教育]  
「役に立たない知識を学ぶことに意義があるのか」 学習意欲の減退

この「学習意欲の減退」を「必然的なもの」と考えいとおかしくなる。こんなときに昔と同じ退屈な勉強をするものはどこがおかしい。

学歴主義によって支えられた学習意欲  
学習意欲：教育にとって一番大切なもの  
学歴主義の崩壊 競争原理を拒否。

進学率が止まる

進学率あがっても卒業率は停滞  
学歴社会が終わったのではなく、学歴に価値がなくなった。

転換期の教育

教育も転換が必要。生徒数も減少。  
これからの教育は「学びたい」という生徒が相手ではない。

不登校の何が問題なのか  
変わるべきは生徒か学校か

・増加は止まらない 明るい傾向

全国で同様に増加。

- ・ 文部省の方針転換  
50%出席で単位認定。  
不登校 50 日を 30 日へ。
- ・ 明治期の通学促進実験  
石川県代表 強制的に登校させる。  
長野県代表 「学校へ行って良かった」と思えることが先。

- ・ 不登校は「学校改革への要求」  
未来は明るい
- ・ 「昔は良かった = 時代を戻す」という  
発想が間違っている

登校受諾率 100%がいいことなのか

- ・ 登校受諾率はまだ高い
- ・ なんでも 100%を目指すのは間違い  
教育の多様性

落ちこぼれることができないオウム

登校拒否はたのもしい

教師の子どもに多い登校拒否

日本社会が求める創造性

- ・「模倣の時代」は終わった
- ・学歴主義等による外発的動機づけで創造性は育つか

「エリート養成」の意義

「たのしい」と思える内発的動機が創造性のもと

未来の教育

- ・教育の主役は子どもたち

(言葉だけでない)徹底した子ども中心主義の教育

「学校不適応」という言葉はおかしくないか

学校が「生徒不適応」をおこしている。

- ・たのしくなければ授業ではない

授業のたのしさは教育の手段ではなく目的

- ・たのしい授業の実現

教師や文部省や組合ではなく、教育研究者の課題。

教材の積み上げ。

なぜいま教育の話題が暗いのか。かつては教育は立身出世のための希望だったから明るかった。

謝辞

このレジュメは、国立教育研究所名誉所員の板倉聖宣先生の教育問題に対するすばらしい発想とグラフを元にして作ることができました。もともとは教職経験者研修会という官制の研修会で「不登校について提言せよ」と言われて作ったものです。初めは、「板倉先生のデータに最新のものを加えよう」と思っていただけなのですが、ついのもり込んでしまいました。しかしまだまだデータが十分でないのと、板倉先生のようなグラフが書けないことがとても不満です。

出典・文献

・文部省のホームページ

<http://www.monbu.go.jp/stat/jmstat.html>

に「各種統計情報」としてデータがあります。「白書」のデータも充実してきています。

・『文部統計要覧』 2000.1 版 700 円

これには求めるデータが無くてがっかり。長期欠席者のデータはあるのですが、そのうち不登校者数がはっきりしているのは平成 10 年度のみ。これでは過去のも取りそろえなければならぬ。

さらに「進学率」「卒業率」を計算してみると、どうもこの『要覧』の数字と合わない。なぜだ???要検討。

・板倉聖宣先生の著作

以下の講演記録がまさにぴったりの内容です。「高校への進学率・卒業率と4年制大学の卒業率」「日本の小中学生のうち 学校

ぎらい による長期欠席者の変遷」というグラフもあります。

板倉聖宣 「教育の未来に向かってオーム真理教から教育を考える」 1995.11.18 日高教育会館での講演記録

『1996 たのしい授業フェスティバル&入門講座』ガイドブック 兵庫仮説実験授業研究会 1996.3.26

板倉聖宣 「校内暴力・いじめ・登校拒否のその後」グラフで見る世界 116 『たのしい授業』No.193

『文部統計要覧』では登校拒否数のデータが得られなかったもので、「板倉聖宣先生はどこから入手したのかなあ」と思っていたら、この記事に詳しく書いてありました。それは

文部省 『生徒指導上の諸問題の現状と文部省の施策について』 1997

という一名『問題行動白書』からの数字なのです。

ただここでの登校拒否数の数字がボクが持っているデータと異なります。それは板倉先生のグラフのデータは、「50日以上欠席しているもの」だからです。文部省は平成2年度までは、「50日以上欠席のもの」の集計をしていましたが、平成3年度からは「30日以上欠席のもの」として調査しているのです。そこでボクも「50日以上」に統一してグラフを作ることにしました。

板倉聖宣 「図表に見る日本の教育」グラフで見る世界 72 『たのしい授業』No.142

板倉聖宣 「図表に見る日本の教育」『週刊朝日百科 日本の歴史 103 近代Ⅰ 4 学校と試験』 1988

上記二つは同じグラフであるが、『たのしい授業』の解説が詳しい。「週刊朝日百科」

には、「明治期における学齢人口の就学率・通学率の変遷」のグラフもある。

板倉聖宣 「未来の学生・生徒数の予測」グラフで見る世界 99 『たのしい授業』No.173  
生徒数の変化も考えなければなりません。

板倉聖宣 「たのしい授業」の学校史的意義 『たのしい授業』No.101

板倉聖宣 「自分の判断で行動する人の時代 登校拒否児の増加は明るい社会の前ぶれ」

『たのしい授業』No.187 『教育が生まれ変わるために』（1999.8）にも収録。

板倉聖宣 「校内暴力とたのしい授業の必要性」『教育の未来に向けて』1995.8

板倉聖宣 「高校を中退してよかった

という高校中退生」『たのしい授業』NO.109  
『仮説実験授業の考え方』（1996.12）にも  
収録

・『知識・情報 imidas2000』 集英社  
類書の中で『イミダス』だけが不登校数変  
遷のグラフが載っていました。これは「30日  
以上欠席」のもので、ただ数字のデータが  
ありません。

・『日本国勢図会』  
これにも載っていました。「50日以上欠席」  
のデータです。しかしちょっとおおまかなデ  
ータ。CDROM版もあるけど、そちらには詳しい  
データが載っているのであろうか。

・不登校のホームページ  
「不登校」で検索したら十万のホームペ  
ージが検索されて驚きました。大問題なんだな  
あ・・・今度は「登校拒否」で検索してみ  
よう。登校拒否では5000件でした。

[質問]

研修会でボクのこの提言に対する参加者  
の反応はどうだったと思いますか。それぞ  
れの参加者の反応（好意的，反発，無視）  
を予想してみてください。

- ・一般の教員の大多数の反応は
- ・教職員組合代表（教諭）の反応は
- ・教育委員会代表（教頭）の反応は

予想

- ア 好意的
- イ 反発
- ウ 好意的と反発の意見がほぼ同数
- エ 無視

どんな意見が出たか予想してみるのまたの  
しいでしょう。

進学校の教員とそうでない学校の教員とは、  
反応も違ったでしょうか。

## 参加者の反応

ボクの子予想は、「だいたい無視されるだろう。でも少数の反発も出るだろう」というものでした。実際は、最初は反発的な質問の嵐でした。その後従来の考えの意見が強く出される中、「こんな発想は初めてだ。今まで考えたこともない。これなら未来は明るいかも知れない」という意見が出され、ボクの主張に沿った意見も後半かなり出され物議を醸しました。しかし、最初から最後まで反発していた教師もたくさんいました。

こうした研修会としては異例の盛り上がりを見せたのに、組合代表の意見は「今日の話し合いは具体的な深まりがなかった」としていくつかの点を取り上げて反発しました。教育委員会代表は価値判断をしかねているようで「魅力ある学校作りが大切」と一般論でした。

研修会の終了後ひとりの教師がボクのところにやってきて、「ユニークな見解に目が覚

めた。これから こういう考えかたもあるということを生徒や同僚に言っていきたい」と握手を求めました。

進学校といわれている学校の教員は、誰一人として発言しませんでした。賛成も不賛成も進学校ではない学校の教員からのものでした。

## [ 質問 ]

研修会では以下のような質問や反論が出されました。みなさんだったらどう答えるか考えてみてください。

( ) の中は、発言者がボクの提言に好意的かどうかです。

- ・理想はよいが現実とのギャップがありすぎて実行不可能。(好意的)
- ・エリートはどんな社会にも必要だ。たくさんエリートが必要である。
- ・指摘されたようなことが問題なのではない。敗戦後アメリカから押しつけられた教育がおかしかったのだ。(好意的)
- ・夢のような話だが、それが正しいということはどうやって証明するのか。
- ・「たのしい授業」というが、苦労や努力を教えることも大切である。部活動で苦しい練習に耐えて優勝する素晴らしさを否定するのか。
- ・「義務を果たす苦しさ」を教えないでいいのか。

- ・「たのしい授業」というが授業ばかりが学校ではない。
- ・「たのしい授業」とか「個性尊重」とかいうのは昔から言い古されて、やってきたことである。そういうのはきれいごとに過ぎない。
- ・学校不適應の問題は、学校だけの問題ではない。
- ・「たのしい授業」とは生徒に迎合した漫才のような授業か。
- ・「高校へ 100%行くのが良いことなのか」という意見は怖い考えであるが、同意せざるを得ない。(好意的)
- ・「未来の教育」とあるが、21 世紀まであと 1 年しかない。1 年で何ができるのか。(好意的)
- ・言っていることはわかるが、具体的内容がない。(好意的)
- ・「たのしい授業」が本質だと思う。しかし目の前の生徒たちに通用するかどうか不安である。(好意的)

おわりに

教員に成り立ての頃、「レポートを出せ」という官制の研究会などには、「おかしいのは生徒ではなく、教育だ」というような物議を醸すようなレポートをよく持っていったものです。でも「若造が、何も知らないくせに」と思われたのか、あまり反応がありませんでした。

何年か教員をやっていると、「ボクの仕事はたのしい授業」としか思えなくなって、そういう研修会に出すレポートは、当たり障りのない内容のものに変化していきました。管理職による締め付けのせいもあったと思います。

しかしさらに歳が進むと、今度はまたそういう「当たり障りのないレポート」を書くのが馬鹿らしくなってきて、「参加者にもたのしんでもらおう」という思いもあり、「礼節を守って物議を醸す」レポートを心がけるようになってきました。

さて今回の研修会では、「こんなに議論

が盛り上がる官制の研修会は初めて」というぐらいのものになりました。ボクの提言にとっても反発していた組合代表の理科教師が、「真理は実験で決まる」と提言者は言ったが、本当に実験で解決できるのか。長い期間のかかるものは実験できない。たとえばプレートテクトニクスが本当だというのなら、海溝に放射性廃棄物を投棄すればよいことになる。地球の内部に運んでくれるのだから、環境汚染の心配もない」というコメントを最後に「まとめ」として発言しました。

そのほかに印象的だったのは、「自分たちが努力したって学校は変えられない」という意見に、ボクの提言に好意的な教師が「考えて見ろ。五年たてば、俺たちが学校のトップではないか。だから学校を変えることができるではないか」と反論したことでした。